

安心して暮らすための
防災の地域づくり

一般社団法人

おもやい

令和4年度 独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

活動報告書



山田助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

おもやいとは？

令和元年(2019年)ならびに令和3年(2021年)、
佐賀県武雄市・大町町では、
短期間で2度に渡る線状降水帯による大雨に見舞われ、
2,000世帯にも上る方々が浸水被害を受けました。
毎年のように佐賀県、九州および全国で
水害が発生しているこのような現況から、
地元のメンバーを中心に、
県内外の仲間たちにお力添えをいただきながら、
できる限りお手伝いを行っております。
また、日常的にもご苦労されている方々へのお手伝いも実施しながら、
災害も平常時も「安心」をともに作り上げていく
地域の一員として活動を続けております。

活 動 紹 介

相談事業

生活に関する個別相談を行っております。

被災家屋の清掃・復旧活動

水害で被災した世帯の清掃や消毒、
その他の相談を実施しています。

会員制おもやい防災安心セット

被災世帯を対象に会員制の防災グッズのセット提供事業です。

おもやいフードリンク

月1回、必要な方へ食料配布会を実施しています。

防災出前講座

災害時に役立つグッズの展示ワークショップなどを実施しています。

地域共生センター「そよぎ」運営

そよぎdeごはん(毎月1回みんなの食堂)、
こどものあそび場(毎週水曜日午後)、
毎月最終日曜日のオープンデー等、地域の方と一緒に開催しています。

WAM助成活動報告

次の災害時に迅速に避難行動をとれるように地域ごとの特性に応じた勉強会等の防災講座を実施した。また、災害時の避難行動を円滑に実施するために避難所となる公民館にあらかじめ避難生活のためのグッズの入ったBOXを設置する取り組みなど、地域の事情に応じた防災計画の作成をサポートした。

次の災害に備えた 地域ごとの 防災計画の作成



■活動実績
防災教室 / 16回
のべ参加人数 / 288名
防災計画 / 1地区

地域での支え合いの 仕組みづくりを 促進する交流

地域の方々と交えた交流会やサロンを開催した。地域の方々のやってみたい企画・取り組みについて聞いたところ、「子ども食堂を実施したい」という声があったことから、当団体の拠点を活用し地域の方々が主体となった「みんなの食堂」を実施するなど、住民主体の取り組みが広がっている。



■活動実績
交流会実施回数 / 19回
のべ参加人数 / 521名

ACTIVITY REPORT

個々の被災者に合わせた 災害からの復旧・ 復興支援のための 個別訪問・相談の実施

被災された方の暮らし再建に向け、特に高齢の一人暮らしの方を中心に個別の訪問を実施しました。また、専用の相談窓口を設置し、電話やLINE、面談による個別のご相談を実施しました。相談内容によって、行政や他の支援団体など、関係機関との連絡を取り、サービスの提供や支援を要請するなどの調整を実施しました。



■活動実績
個別訪問 / 86名
人数 / 32名
相談利用者 / 62名

次の災害に備えるための 個別支援メニュー作成 及び実施

次の災害に備えるため、建築士ボランティア団体等と連携をしながら各ご家庭のニーズを調査し、適切な場所に棚や台を作成し、水害時に水につからないように荷物が収納できるスペースを確保した。利用者には、高齢の方(特に独居)の方が多く、福祉事業所や幼稚園などにも棚を設置した。



■活動実績
棚づくり
下見 / 21件
作成 / 13件
家財移動 / 6件

作成した棚の一部を
次ページ以降で紹介している

棚づくり活動紹介



高い場所に設置する棚

こちらでは、高い場所に棚を設置し、濡れてしまったら困る書類などの置き場を作成しました。

今回のケースは、個人のお宅ではなく障害のある子どもたちの放課後等デイサービス施設です。令和元年、令和3年ともに浸水をしてしまったために、多くの書類も水浸しになってしまいました。特に、こうした事業所では利用している方の個人情報などを書類で管理している場合もあり、水に濡れてしまうと安否確認や災害後の支援などに遅れが出てしまう可能性もあります。もちろん、紙以外にもデータで管理している情報などもありますが、電子機器も水に濡れてしまうとデータが破損してしまうため、紙媒体の書類もしっかりと確保しておくことが必要です。普段、それほど頻繁に使うことがない書類を中心に置くため、使い勝手よりもより高い位置に設

置するという点、しっかりとした強度になるように補強する点などを考慮して設置場所や施工方法を工夫しました。

このように、用途にあわせて設置場所なども自由に変更できる点がこの事業の特徴です。



物を収納する棚づくり

このお家では、物を収納するための棚を作り設置しました。水害をきっかけにほとんどの家具を捨ててしまったという方のお宅であったため、収納が少ないという悩みも抱えておられました。

水害後は、なかなか大工さんの工事が進まないということで、困っておられました。こちらのお家の方からは、やはり物を高いところにあげたいというご要望があったため、水害がきても濡れない場所への棚設置ということと、使い勝手の良さも考慮しながら、高い場所だけでなく中間にも収納を配置した二段の棚を作成しました。

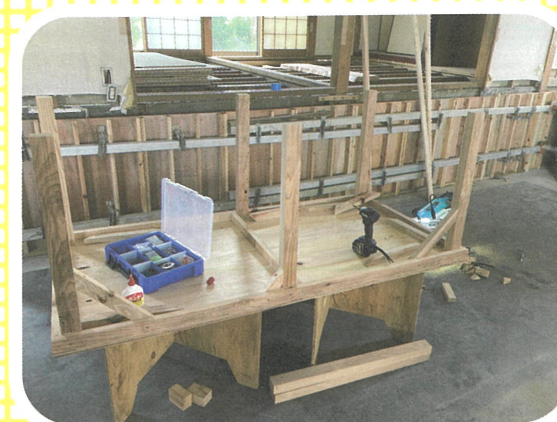
この活動の良さは、ご本人のご要望と使い勝手などを事前にご相談しながら作成することができ、家具のサイズなども自由に決定できる点です。今回も、設置する居間の間取りにあわせて棚を作成することができました。設置場所も、事前に下見をしながらご相談し、ご本人にとって一番使いやすいところに設置することを心がけています。



ACTIVITY INTRODUCTION

ACTIVITY INTRODUCTION

畳を避難させる 台の作成



こちらのお家は、平屋であるために畳を逃す場所がないということが悩みになっていました。令和元年、令和3年と二度の水害で浸水の被害を受け、その度に畳も新品と交換をしなければならず、経済的な負担も少なくありませんでした。

そのため、畳のサイズにあわせたテーブルを作成し、いざという時には畳を避難させることができるように設置をしました。

テーブルのようになっているので、設置場所は固定されず、動かすことができる点が特徴です。

特に平屋建ての家の場合、水に濡れないように物を避難させることが難しい状況があります。そういった方にも、ご要望に応じて、適切な対策を講じられるように、こちらから提案もさせていただいています。



※注意：本事業は浸水対策のため、高所の棚づくりをすすめています。居間や寝室への設置については、地震にも配慮した安全対策が必要となります。

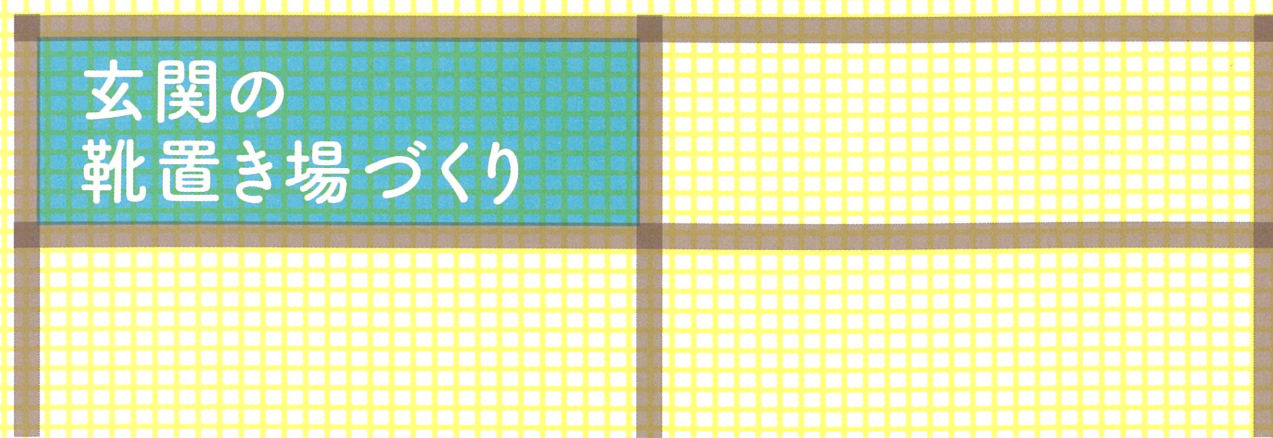


こちらのお家も令和元年、令和3年と二度の浸水被害を受けました。水害後、靴箱を処分して、靴の収納に困っているということで、靴置き場を作成し設置しました。こちらのお家は、低い土地に建てられており、頻繁に浸水の被害を受けるということでした。そのため、市販の靴箱を設置してもすぐ水に浸かって痛んでしまうということから、靴箱を撤去したまま、新たに購入するのを控えていたそうです。しかし、そうすると玄関が靴でいっぱいになってしまい、高齢の家主さんがつまづいてしまうリスクもありました。

そのため、今回作成したのは無垢材を用いた靴置き場です。合板などを使用した靴箱は水に弱く、濡れると再利用ができませんが、無垢材であれば綺麗に洗浄し乾燥させることで再利用することができます。

このように、繰り返し災害のリスクがあるために必要な家具をそろえられず、生活が不便になっておられるケースでした。靴置き場は防災とはあまり関係のないように思えるかもしれませんが、材料を工夫し再利用可能にするだけで、不便になっていた日常生活から、元の暮らしに近づけ、安全・安心にもつながっています。

玄関の 靴置き場づくり



利用者の声

水害対策をさせていただいた方々の声をご紹介します。



●洋服や小さいものをちょっと逃す棚が欲しかった。自分も親が高齢になり心配で東京から帰ってきている。ほとんどのものは二階においているが高齢の親でも物が置ける棚を作ってもらってありがとう。

●ほとんど荷物を一階には置いていないが、高価な家電の中で洗濯機でも助けたいので相談した。みんなで一緒に考えて、とりあえず洗濯機が載せられる棚を作って必要な時に使用することで対応する。インスタもいつも見て勉強させてもらっている。



●タンスなど浸かったら壊れて諦めて捨てていたが残ったものを少しでも助けたいと依頼。前回までの水位なら大丈夫。本当にありがとう。

●母が入所してからは一人暮らし。自分で工夫して色々なところに棚を作ってあげていたが重いものを載せるものをどうしようか考えていた。これで重いものも逃がせる棚ができた。ありがとう



●普段から時期が来るとソファから何からあげている。高齢二人暮らしだからほとんどすぐには動かせない。今回広い棚を作ってもらったのでいろんなものを載せられて助かる。



User's Voice

アンケート

Questionnaire Results

アンケート結果から

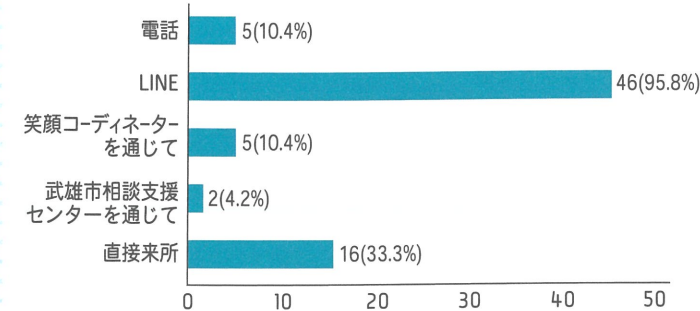
本アンケートは、一般社団法人おもやいの実施する相談窓口を利用された方に回答していただき、48名から回答を得た。(アンケート実施期間は、11月15日~12月4日)

普段どのような相談手段を利用しているかについては、特にLINEを利用しての相談が多くなっているとともに、直接来所しての相談も一定の割合を占めていることがわかる。これは、LINEのように気軽に相談できるニーズが高いだけでなく、個別訪問によって職員との顔の見える関係があるからこそ相談できることもあるということを示しており信頼関係を構築しているために相談しやすくなっていると考えられる。

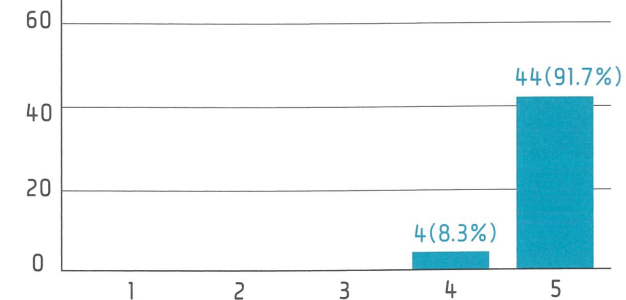
以上のことから、気軽さに加えて信頼関係というものが相談のしやすさに影響を与えていると考えられる。

さらに、多くの方が相談業務の必要性に対して高い点数をつけている。利用者のほとんどが、他の機関を通じての相談ではなく、直接当団体へとアプローチしている方であることもあり、こうした相談窓口の開設および、個別訪問等による信頼関係構築を継続していく必要があることを示していると考えられる。

1. どのような相談手段を利用していますか？(複数回答可)



2. フードリンク等のおもやい相談窓口の必要性について評価してください。



連携機関からのご意見

ご意見をうかがった機関

武雄市防災減災課、武雄市市民協働課、武雄市福祉課、笑顔コーディネーター

一般社団法人 おもやいの良さ

- フットワークが軽い
- 行政にはないスピード、迅速性がある
- (行政と) 顔の見える関係ができていて、距離感がうまく取れている
- 行政もおもやいから学ぶことが多い
- その方の事情にあわせた支援を実施していて、関係がしっかりと構築できている
- おもやいと連携することで、関係構築のきっかけをつくることができ、その後の支援につなげることができた
- 活動に対する視野が広く、様々な角度から考えることができるし、スピード感があって信頼関係構築がすぐに出来ている
- おもやいからもらった情報のおかげで、自分たちが同じ人に接する時にも色々な配慮ができるようになった
- おもやいをきっかけにして、他の団体との連携を進めていくことができた

おもやいに改善してほしいこと

- 自立につながる支援のあり方の議論(行政の支援とのスタンスの違いを理解する)
- 何かあった時に、行政と連携しやすいような連絡体制づくりをしてほしい
- もっとおもやいのことを多くの人に知ってもらうように広報をしてはどうか？

これからの期待

- 地域で活動する方々の拠点となってほしい
- おもやいの出来ること、出来ないことの可視化をして、より連携を進めていきたい
- 長く継続的に活動してほしい
- これまでのノウハウを活かし、防災や福祉の面でもより連携を深めていきたい
- 継続して活動してほしい
- 地域の方々の見守りも継続してほしい



募金ご協力のお願い

私たちの活動はさまざまな財団様や企業様からの助成金、一般の方々からのご寄付で成り立っております。ぜひ、私たちの活動にご支援、ご協力をお願いいたします。

食品を寄付する

フードリンクというフードロス対策の事業で家で食べきれない食べ物を募集しています。

賞味期限はできれば2週間～1ヶ月以上残っているもので、お米、ラーメンや素麺などの乾麺などを常時募集しています。皆様是非ご協力お願いいたします！

ふるさと納税で寄付する

佐賀県 NPO 支援指定寄附～ふるさとチョイスを活用して、寄付をしていただくことができます。右のQRコードから寄付ページにアクセスできます。



寄付口座

■ ゆうちょ銀行間の送金

口座記号・番号 01700-0-152721

一般社団法人おもやい

■ 他行からゆうちょ口座への送金

銀行名 ゆうちょ銀行

支店名 一七九

(イチナナキュウ)店(179)

口座番号 (当)0152721

口座名義 シャ)オモヤイ

■ 佐賀銀行への送金

銀行名 佐賀銀行

支店名 北方支店

口座番号 (普)3022610

口座名義 一般社団法人おもやい

シャ)オモヤイ

一般社団法人
おもやい

〒849・2201 佐賀県武雄市北方町志久1759

eメール omoyaivc@gmail.com

TEL 0954・33・0444